

魅力的な Grand RE2022 国際会議の御案内

論文発表を含めた全体工程 2022年12月13～20日(土日を除く) オンライン開催

1日目 12月13日(火)	2日目 12月14日(水)		3日目 12月15日(木)		4日目 12月16日(金)		5日目 12月19日(月)		6日目 12月20日(火)	
AM/PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM
	開会挨拶、基調講演パート1、基調講演パート2 特別セッション(ゼロエミッション)									
分野ごと： ・招待講演 ・口頭発表 ・ポスター発表	分野1:政策・統合概念				分野10エネルギーネットワーク					
							分野7:水素・燃料電池		分野11: 省エネ・ヒートポンプ	
	分野3:太陽熱利用									
			分野4:環境建築		分野6:バイオマス				分野2:太陽光発電	
	分野9:地熱・地中熱									
			分野8:海洋エネルギー							
							分野5:風力			
									分野12: 中小水力・未利用エネ	

●ホームページ: <https://www.grand-re2022.org/>

●開催趣意

エネルギーの脱炭素化に向けて再生可能エネルギーの最大利用は勿論のこと、環境負荷がない水素エネルギーへの転換、排出CO₂の回収・再利用など技術的課題をクリアし、脱炭素化に向けた取り組みは待たなしの課題である。このためには企業の取り組みが第1であるが、それを持続的な取り組みとして知恵とノウハウを使って育てあげていくのが、今、学生である若い諸君とそれを指導する大学や研究機関の先生がた、そして経験豊富な研究機関や企業の研究者である。また、分野も専門的な最新技術の研究に加え、経済や経営の観点、地球環境学の観点からも幅広い知識、ノウハウが必要になってきている。このような視点に立ち、Grand RE2022 国際会議を次のような趣意をもっている。

- ①将来を支える研究者の研究発表の場とする。②研究発表者が希望すれば J-Stage を通して世界に自分の研究を発信。
- ③研究機関や企業からの発表も大歓迎。④近未来を見据えたグローバルな取り組みを発信。⑤第1級の国際会議を目指す。⑥社会情勢に左右されずどこからでも参加可能なオンライン開催。

●プログラム:

- 1日目 基調講演6件、並びに特別セッション(主催 国立研究開発法人産業技術総合研究所)
- 2～6日目 招待講演19件と12分野の研究発表と技術発表など700件以上、**現在募集中(9月30日一次締切)**

●**投稿要領:** ホームページのアブストラクト/フルペーパー <https://www.grand-re2022.org/abstract.php>

●**登録:** <https://www.grand-re2022.org/registration.php> 一般 2万円、学生 1万円

●言語: 英語




















●お得なスポンサーシップもあり <https://www.grand-re2022.org/sponsorship.php>

Grand RE2022 基調講演者一覧（6名）：講演 2022年12月13日

海外からリアルで講演を行っていただくために、基調講演を午前前半(米国)と午後後半(欧州)の2回に分けて行う。

基調講演1		講演時刻
	<p>保坂 伸 (Mr. Shin Hosaka) 経済産業省資源エネルギー庁長官。 同長官として我が国のエネルギーのあらゆる分野を指揮統括している。エネルギー戦略、エネルギー安全保障を柱に、電力、ガス、そして再生可能エネや省エネ政策なども指揮している。</p>	09:30 – 10:05
	<p>Dr. Martin Keller 米国エネルギー省傘下の再生可能エネルギー国立研究所、NREL の全統括部門の Director で、The Alliance for Sustainable Energy の会長も兼務する。米国のエネルギー戦略分野のリーダーとして活躍している。</p>	10:05 – 10:40
	<p>吉野 彰 (Dr. Akira Yoshino) 国立研究開発法人産業技術総合研究所ゼロエミッション共同国際研究センター所長。リチウムイオンバッテリーの開発で2019年ノーベル化学賞を受賞。現在、同研究所で2050年カーボンニュートラルに向けて多くのプロジェクトを主導する。</p>	10:40 – 11:15
基調講演2		
	<p>上田隆之 (Mr. Takayuki Ueda) 株式会社 INPEX 社長、元経済産業審議官、再エネ協議会活動の発足時の精神的支柱、2050年自社ゼロカーボンに挑戦開始、エネルギー変革を目指す。</p>	15:30 – 16:05
	<p>Dr. Paolo Frankl IEA の再生可能エネルギー部門の部門長。政策方針、市場動向、各種技術分野など10カ国、31人のスタッフを指揮して世界に発信している。ローマ大学卒業後、フランスの研究機関に入り、IEAで活躍、約30年の経験をもつ。</p>	16:05 – 16:40
	<p>Prof. Andreas W. Bett ドイツ Fraunhofer Institute の Solar Energy Systems ISE の Director で University of Freiburg の教授も兼ねる。太陽電池セルの材料の研究に長く携わっている。実証研究も数多く手がけ、セルの製造企業も複数立上げた。</p>	16:40 – 17:15

Grand RE2022 招待講演者一覧 (19名):講演 2022年12月14-20日

 分科会1:政策統合概念	Prof. Hiroaki Nagayama 日本 京都大学 教授 政府政策委員	 分科会 4:環境建築	Prof. Shin-ichi Tanabe 日本 早稲田大学 教授 建築学会会長	 分科会 8:海洋エネ	Dr. Y-H De Roeck フランス IEA Leader, Ocean Energy
 分科会1:政策統合概念	Dr. Ben Kroposki 米国 NREL, Director 政策立案担当	 分科会 5: 風力	Dr. Bernhard Stoevesandt ドイツ Fraunhofer Inst. IWES Head Aerodynamics	 分科会 9:地熱地中熱	Ms. Lauren Boyd 米国 U.S.Department Geothermal Dep Director
 分科会 2:太陽光発電	Dr. David Moser イタリア EURAC, リーダー TRUST-PV	 分科会 5: 風力	Prof. Christian Bak デンマーク Delft Tech. U. 教授 Risø airfoil 設計	 分科会 9 地熱地中熱	Prof. Jeffrey D. Spittler 米国 Okulahoma State Univ. Ground S HP
 分科会 2:太陽光発電	Dr. Takurou N. Murakami 日本 AIST, 部門リーダー ペロブ共同発明	 分科会 6: バイオマス	Prof. Lasse Rosendahl デンマーク IAalborg Univ. 教授 Thermal energy	 分科会 10 エネネットワーク	Prof. Pierluigi Mancarella オーストラリア The University of Melbourne Grid integration
 分科会 3:太陽熱利用	Prof. Klaus Vajen ドイツ The Univ. of Kassel ISES President	 分科会 6: バイオマス	Prof. Eniya Listiani Dewi. インドネシア BRIN Research Prof. Bioenergy and H2	 分科会 11 省エネ・HP	Mr. Thomas Nowak ベルギー EHPA Secretary General
 分科会 3:太陽熱利用	Prof. Graham Nathan オーストラリア The Univ. of Adelaide 国際的受賞多	 分科会 7:水素・FC	Dr. Laurent Antoni フランス CEA Liten PA manager, Hydrogen Europe	 分科会 12 中小水力	Prof. Kazuyoshi Miyakawa 日本 早稲田大学 教授、ターボ機 械学会副会長
		 分科会 7:水素・FC	Dr. Felix N. Büch スイス Paul Scherrer Inst Project Head FC, Diagnostics		